

シンナガサキミーていんぐ開催レポート

i n 外海黒崎小学校区



令和6年3月17日（日）、自治会やコミュニティ協議会、育友会、地元事業者など16人の皆さんにお集まりいただき、外海黒崎小学校区の「シンナガサキミーていんぐ」を開催しました。

自己紹介では、世界遺産や自然を活かしたまちづくり活動や移住して感じる地域の良さ、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①今後の外海地区の世界遺産について

世界遺産になって5年経過したが、行政が出津集落に対して、どういふことをしてほしいのか、住民はどうしたらいいのかということをお話し合う、対話の場を設けて話してほしい。

市の考え方 回答

これまで、来訪者受入態勢を整備する際の地元自治会への説明の実施、関連資産のモニタリング調査や対策検討を行う際の所有者等への聞き取りの実施、文化的景観の整備活用についての審議を行う「長崎市外海の石積集落景観整備活用委員会」の傍聴案内の地元自治会あての送付など、外海地区の皆さんとのコミュニケーションに努めてきたところです。また、令和6年度は、4月12日に開催された出津地区コミュニティ連絡協議会において、世界遺産に関する事業の取組状況などについて説明を行いました。

世界遺産を活用した地域活性の取組に関して、現在、一般社団法人ISHIZUEが地域全体をフィールド・ミュージアムにする、「ド・ロさまと歩くミュージアム」プロジェクトが進められており、これと連携した整備計画の検討について、地元の皆さんと対話を行いながら進めていきたいと考えています。

②石積集落景観維持のための技術継承について

「石積集落景観」になっているが、石を積む人が少なくなっており、技術継承がなかなかされていない。文化的景観を維持していく人たちがいなくなるのではないかと危惧している。

市の考え方
回答

石積技術の継承については、長崎市としても重要な課題であると認識しており、地元自治会、長崎県、長崎市の協働により、ワークショップの開催など石積技術の継承に向けた具体的な取り組みの実施に向けて令和5年度に協議を始めたところです。

③新規就農の支援について

「農業をやりたい」という熱意がある人を応援するような支援をしてほしい。

市の考え方
回答

新規就農には、大きく分けて「独立就農」と「親元就農」の2つのパターンがあり、各々に支援制度があります。

新規就農者への支援につきましては、主に認定新規就農者（5年後の農業所得目標300万円が見込まれる青年等就農計画を作成し、市の認定を受けた者）に対して重点的に行っており、様々な要件はありますが、融資や補助の制度がありますので、農林振興課（電話820-6564）にご相談ください。

そのほか、「外海地区の観光ルート整備について検討してほしい」、「外海地区を案内するため、地域全体の案内図をつくってほしい」、「長崎独自の地域づくりを考えてほしい」、「空き家の活用を考えてほしい」などのご意見をいただきました。

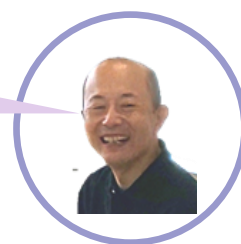
いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。



鈴木市長のひと言

この外海の地域で、地域のために色々な形で活動されているということで、よく分かりました。

世界遺産を有している地域の強みの活かし方、農業振興や空き家の活用など、今後も皆さんと一緒に考えながら、まちづくりを進めていきたいと思います。



参加者からの感想

市長に具体的な地域の現状を話せたので良かった。地域の人のことを色々知れた。

頑張っている地域の方々との出会いに励まされた。

地域の色々な分野の方の話を聞くことができてよかった。地域の活性化のために力を合わせていきたい。

対話の大切さを実感しました。ただ暮らすだけではなく、その地域を活性化させる役割を積極的にしていきたいと感じた。

